

## 30 年度 氷見市教育総合センターだより 第5報

## 第2回 ICTを活用した授業づくり研修会

11月2日(金)開催

研究授業 3学年社会科「店ではたらく人」 氷見市立窪小学校 増川 凜 教諭  
 講師 東京学芸大学 准教授 高橋 純 先生

「第2回ICTを活用した授業づくり研修会」は、「ICT教育推進協力校」である窪小学校で行われました。3学年の担任である増川先生の授業を基に、ICTを効果的に活用した授業づくりの在り方について研修しました。

3年生の子供たちは、自分が調べたいスーパーマーケットに見学に行き、タブレットPCのカメラ機能で、自分たちが見付けた「ひみつ」を撮影しました。そして、学校に戻ってから、ジャストスマイルの「カード」機能を使って、グループごとにプレゼンを作成しました。研修会当日の授業では、より伝わりやすくするにはどうすればよいのかを考えながら工夫する子供たちの姿が見られました。

講師の高橋先生からは、授業に関する指導を通して、今後のICT活用の目指す方向を示していただきました。参加者の感想の一部を紹介します。



写真撮影をする子供たち



「ひみつ」プレゼンの作成

- ・小学校3年生の子供たちがタブレットを使いこなしている姿に驚いた。自分の学級でも、タブレットPCを活用する場面を広げていきたいと思った。
- ・タブレットPCをどのように子供たちに使わせるかという前に、電子黒板をどのように活用していけばよいのかを考えなければならないと思った。教材を拡大して提示するなど、日常的な活用を心掛けていきたい。

## 幼保小接続交流体験活動 実践事例 比美乃江小学校

10月30日(火)実施



合唱を披露する6年生

10月30日(火)、比美乃江小学校では「小学校区わくわく・きときとカリキュラム」(接続期カリキュラム)の一環として、幼保小接続交流体験活動が行われました。3つの園から次年度入学予定の園児が参加し、仲良く活動しました。

最初に、園児たちが、自己紹介やふれあいゲームを通して交流しました。4月から同級生となる友達に、みんな興味津々で、だんだんと緊張がほぐれ、笑顔がたくさん見られるようになりました。

次に、6年生が歓迎の気持ちを込め合唱を披露しました。お兄さんお姉さんのすてきな歌声に、園児たちは聴き入っていました。その後、6年生と手をつなぎ学校探検に出かけました。1年教室では、元気に発表する1年生を見て、小学校での学習に興味をもったようでした。また、図書室や家庭科室などの特別教室では、蔵書数の多さや道具の種類の豊富さに驚いていました。短い時間でしたが、小学校生活への期待感を膨らませることができるよい機会になったようです。

交流体験活動は、小学校入学に向けての園児の不安感の軽減と小学校生活への希望を膨らませることにつながっています。各小学校においては、今後行われる入学説明会や交流会を基に、幼保小の円滑な接続ができるよう配慮をお願いいたします。



6年生と学校探検

## 「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業

11月16日（金）実施

演 題 「『正面突破』の精神で」  
《講演会 開催》

講 師 テレビ朝日ニュースデスク・作家 出町 讓 氏

氷見市では、教育振興基本計画の基本理念として、「ふるさと氷見を愛し 次代を担う人づくり」を掲げています。このことを受け、「中学2年生を対象に、平成24年から各界の著名人や一流選手等を招いた講演会を開催しています。

本年度の講演会は、テレビ朝日ニュースデスクであり、作家でもある出町讓先生を招いて行いました。出町先生は、氷見市出身の事業家 浅野総一郎の全人生を描いた伝記「九転十起 事業の鬼 浅野総一郎（幻冬舎）」の著者です。また、北日本新聞にも、地方創生について毎月連載をされています。

出町先生には、学生時代から社会人となった現在までのエピソードを通して、挑戦し続けることの大切さについて話していただきました。中学2年生は、「14歳の挑戦」を体験し、社会の一員として、将来の自分の姿や生き方を考え始めています。この時期に、出町先生の生き方や考え方に触れたことで、生徒たちは、視野を広め、自分を振り返り、これからの目標や夢について改めて考える機会となったようです。



講演を行う出町讓先生



生徒代表謝辞



<講師について>

【プロフィール】

1964年 高岡市生まれ 高岡高校・早稲田大政治経済学部卒時事通信社で経済部、ニューヨーク特派員を経て、2001年にテレビ朝日入社。同社の番組でニュースデスクを務める傍ら、「週末作家」として活躍。東京都在住。

【主な著書】

「清貧と復興 土光敏夫100の言葉」（文芸春秋）

「九転十起 事業の鬼浅野総一郎」（幻冬舎）

「景気を仕掛けた男『丸井』創業者青井忠治」（幻冬舎）

将来の自分の姿や生き方を考え始めた生徒たちの思いは・・・

<講演を聴いての生徒の作文より> 一部抜粋



一番心に残ったことは、陰でがんばっている人がたくさんいることです。テレビの仕事には、出演者以外にも、プロデューサー、ディレクター、カメラマン、編集、照明、美粧などがあるのです。「ONE FOR ALL、ALL FOR ONE」は学級目標でもあるので、クラスの一員として動きたいと思いました。また、支えてくれている人にも感謝の気持ちをもちたいと思いました。  
(南部中学校)

「自分の意思をまげないということ」「失敗をしても次に生かすということ」を学びました。僕は、自分が決めたトレーニングメニューを継続できませんでした。また、今までに数多くの失敗をしてきたのですが、それを次に生かすことができているとは言いきれません。

これからの人生を夢に向かってしっかりと歩んでいけるよう、これら2つのことを改善したいと思いました。  
(南部中学校)

私は今年、「14歳の挑戦」を体験しました。初めは、分からないことだらけで、失敗もたくさんあり、大変でしたが、一緒に活動していた仲間助けられながら、やり遂げることができました。今回の講演は、自分が体験した「14歳の挑戦」と重ねて考えてみると、当てはまっているなどと思うところがたくさんあったように思います。将来自分が理想とする職業に就くために、努力を積み重ねていきたいと思っています。(北部中学校)

氷見のブランドについてのお話が心に残りました。出町先生は、自分の町や地域に誇りをもったほうがよいとおっしゃいました。今まで私は、「氷見は田んぼばかりで田舎だなあ」と思っていました。が、「ブリ」という一つのブランドがあることで、世界中から注目されていると聞き、自分の住む地域に、誇りをもちたいと思うようになりました。そして、氷見市出身の浅野総一郎さんのように、失敗しても何度も起き上がるような生き方をしていきたいです。(北部中学校)

浅野総一郎さんの人生を例えた「九転十起」という言葉が印象に残りました。九回転んでも十回起きればよいという意味です。最後まであきらめないことの大切さが分かりました。私も、勉強や部活でうまくいかなかったり、思い通りにならなかったりして、悔しく感じたことがあります。これからは、何度つまづいても、失敗したことを次に生かして、成功につなげることができるように考えて行動したいと思いました。(西部中学校)

ダーウィンの「強い者が生き残るのではない。賢い者が生き残るのもでない。変化を恐れぬ者が生き残る。」という言葉が心に残りました。変化を恐れずに、新しいことに挑戦することの大切さを教えられました。今までの自分を振り返ると、新たなことに取り組んで失敗することを恐れて、今まで通りのことをしようとしていました。今回学んだことを生かして、何事にも前向きに挑戦していきたいと思っています。(西部中学校)

原稿を読むのが上手な人と、下手でも熱く語る人とではどちらが気持ちを伝えられるか考えてみました。テレビのニュースでは、棒読みをするベテランより、一生懸命伝えようとする新人の方が、視聴者に思いが伝わると思います。

私は、人前でスピーチするときに、原稿を覚えることに必死になります。これからは、自分の思いをより強く伝えられるように努力したいと思いました。(十三中学校)

「成功しても調子に乗すぎない」ということを聞き、部活動でのある出来事を思い出しました。僕は野球をしていますが、ある試合で、二打席連続でヒットを打ちました。調子に乗った自分は、三打席目に大きな当たりを狙ってしまい、結局打てなかったという経験がありました。今回の講演を聴き、常に、平常心を保ってプレーすることの大切さが分かったような気がします。失敗を恐れず、成功しても調子に乗らずにがんばっていききたいと思っています。(十三中学校)

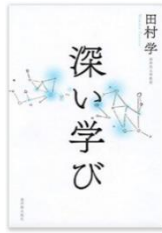
講演が終わった後、私は、「原稿を書くときに気を付けていることはどんなことですか。」と質問しました。出町先生は、「『相手に伝えたい』という熱意をもって原稿を書くことです。」と答えてくださいました。これからスピーチをするときや、みんなに思いを伝える文章を書くときなどに、今回、出町先生に教えていただいたことを生かして、「伝えたい」という気持ちを強くもちたいと思いました。(西條中学校)

出町先生には、「作文は自分の思いを込めて書く。」「難しい言葉や横文字はできるだけ使わない。」などと、文章を書くときのコツを教えてくださいました。私は、作文が苦手です。つい難しい言葉を使おうとしてしまい、主語と述語がねじれてしまうことがあるのです。人に伝わる文章は、分かりやすいことが一番だと思いました。私も、出町先生とよく似た進路を目指しています。自分らしく自分の道を進んでいこうと思います。(西條中学校)

## おすすめ 図書の紹介

本年度、新しく購入した新刊本の一部を紹介します。是非、ご一読ください。

「主体的」も「対話的」もつかめる。だけど「深い」は分かりにくい、という方に向けておすすめの一冊です。数多くの実践を交えながら、その具体を明らかにしていきます。



深い学び  
田村 学 著  
東洋館出版社

七つのミッションのつながりを全体構成の基本原理に据え、生活科・総合的な学習の時間を軸としたカリキュラム・マネジメントの実践を通して、教師の働きかけと具体的な子供の姿を明らかにします。



カリキュラム・マネジメント入門  
田村 学 著  
東洋館出版社

アクティブ・ラーニングを通じた授業を目指す中で、教師はどのようなビジョンをもち、授業を磨いていけばよいかについて、「探究・協同」「イメージ力」「課題設定」「思考ツール」等をテーマに具体的に紹介しています。



授業を磨く  
田村 学 著  
東洋館出版社

教育現場が複雑・多様化する中で、変わらない教師の資質、醍醐味とは何か。公立中学校の教員として勤務し、いじめや学級崩壊と向き合ってきた著者が、多くの実践を基に想いを語ります。



教師という生き方  
鹿嶋 真弓 著  
イースト・プレス

情報を集め、戦略を立て、取り組みを評価する。忙しさの中で、このパターンをシミュレーションに実践できる、2つのツール「シミュレーションシート」と「蓄積データ」。その活用の仕方と、実践の成果を見極めるデータの集め方を紹介しています。



実践を変える  
2つのヒント  
鹿嶋 真弓 著  
図書文化社

子どもがイキイキして、活動が積み上がっていくクラスは、何が違うのか？すぐに真似したい実践をもとに、成果をあげる「考え方のコツ」や具体的な配慮のポイントを著者が分かりやすく説き明かしています。



学級づくり  
授業づくり人づくり  
鹿嶋 真弓 著  
図書文化社

本年度、教育セミナーで指導いただいた田村 学先生、鹿嶋 真弓先生の著書を紹介します。学級づくりや授業改善に役立つ内容です。是非、手に取ってみてください。また、「教職研修」や「指導と評価」、「学校教育相談」等の教育雑誌もたくさんそろっています。★是非、ご活用ください。

## お知らせ

### 平成30年度 教育論文・教育実践記録募集について

日頃の地道な教育実践に基づいた自主的な研修を奨励し、顕彰するとともに教員相互の資質向上を願って、今年度も皆さんの教育論文・教育実践記録を募集します。奮って応募ください。

#### (募集要項)

- 1 規格
  - ・ A4判サイズ、本文12ページ以内
  - ・ 字数は40字×40行とし、写真、図、表などを本文に挿入する場合も枠内におさめる
  - ・ 提出は2部（閉じたもの、閉じてないもの各1部）、概要（A4判1枚）2部
- 2 応募締切 平成31年1月8日（火）17:00まで
- 3 提出先 教育総合センター

※ 詳細は、第4回 小・中学校長会議資料をご覧ください。

